

Z世代の強みを引き出す！

特集 「刺さる」小児看護教育・研修のデザイン

講義・演習・実習・新人教育のアップデート

特集にあたって

Z世代の強みを学びにつなげる “刺さる”デザインの探求

看護基礎教育や臨床の現場において、学生や新人看護師の教育・指導に難しさを感じるという声を耳にすることが増えました。現在の看護学生や新人看護師の多くは、いわゆる「Z世代」と呼ばれる世代です。デジタル環境のなかで育った彼らは、情報収集が速く、効率性を重視し、多様性への理解や柔軟な発想をもっているという大きな強みがあります。一方で、タイムパフォーマンス(タイパ)を重視する姿勢や、対人コミュニケーションへの苦手意識、失敗することへの強い恐れなどを指摘されることも少なくありません。こうした特徴は彼らの学習スタイルにも影響を与えており、教える側からみると「教えにくさ」としてとらえられやすく、従来の指導方法では思い通りの手応えが得られない場面が生じています。

学習者の価値観や学び方が変化しているのであれば、私たち教育する側もまた、かかわり方を変化・更新し続けていく必要があります。今日の高等教育において「学修者本位の教育への転換」が強く求められているように、指導者側が一方的に型へ当てはめるのではなく、学生や新人看護師の特徴を正しくとらえ、その強みを最大限に引き出せるような教育へとアップデートしていくことが不可欠です。

とくに小児看護の実践においては、単なる知識や技術の習得だけでは十分とはいえません。こどもの発達段階や個別性をとらえ、こどもや家族との信頼関係を築き、多職種と協働しながら、その場の状況に応じて判断・実践する総合的な力が求められます。限られた時間で効果的に学びたいと願うZ世代の学習者に対して、納得感のある学びや目的の明確な学びを提供すること、つまり、彼らのニーズに寄り添った形で意図的に教育をデザインすることこそが、

結果として学習者に「刺さる」教育になると考えます。

そこで本特集はZ世代の強みを生かした「学びを生み出すデザイン」を多角的に紹介する構成としました。

まず基礎知識として、Z世代の特徴をキャリア発達の視点から紐解き、効果的な教え方やかかわり方を整理します。続く実践編では、講義・演習・実習の各場面を取り上げます。リアルなこどもの姿を伝える講義、タイパを意識する学習意欲を支えるオンデマンド型授業、思考を可視化するシミュレーション演習やOSCE (Objective Structured Clinical Examination)、さらに多様なフィールドでの臨床実習での指導アイデアや学内実習での教員のかかわりを共有します。加えて臨床現場に向けては、集合研修からOJT (On the Job Training) へつなぐ新人教育、医療安全教育、日々の実践のなかで若手を育てる工夫などを幅広く紹介しました。最後に座談会として、生成AIという新たな学習環境をテーマに、これからの教員の教育活動と学生の学習活動の実際について議論を深めています。

本特集で紹介する実践の多くは、決して大規模な改革や特別な設備を要するものばかりではありません。日々の教育活動のなかで今日から取り入れられる小さな工夫や、視点を少し変えるためのヒントが詰まっています。読者の皆様がご自身の教育・研修の場面を振り返り、「これなら自分たちにも取り入れられそうだ」と思える実践的なヒントを見つけていただければ幸いです。

共立女子大学看護学部小児看護学教授、
同大学高等教育開発センター長
西田志穂 Nishida Shiho